

## 第 1 1 回卒業証書授与式

令和 6 年 3 月 1 日

第 1 1 回卒業証書授与式が厳粛に行われました。保護者の皆様をお迎えし、そして在校生として 2 学年生徒にも出席してもらいました。

今回は、PTA 会長様、同窓会長様をはじめ、学校評議員様、市議会議員様、本校歴代校長様、関係小中学校の代表様、その他多数の皆様に参加いただき、PTA 会長様には温かいご祝辞をいただきました。

ご卒業本当におめでとう。1 1 期生の皆さんの輝かしい未来を教職員一同心から祈念いたします。



当日早朝の正門 雨が上がり空には晴れ間が



PTA からいただいたお花が式を華やかに



尼崎市長、尼崎市市議会、尼崎市教育長、関係小・中学校長、国会議員、県議会議員、市議会議員、その他の皆様から多数のご祝電祝詞を賜りました。誠にありがとうございました。  
(敬称は略させていただきました)



答 辞



送 辞



卒業証書授与



学年主任挨拶

## 第11回卒業証書授与式 校長式辞

ここ、園田の地にも、早春の息吹が満ち始めたこの良き日。本日ここに、尼崎市立尼崎双星高等学校第11回卒業証書授与式を挙行できますことは、私たち教職員にとりまして、大きな喜びでございます。

ただ今、晴れて卒業証書を手にした323名の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんのこれまでの努力と研鑽を心から称えたいと思います。人生の中で多感な高校時代を、ここ尼崎双星高校で過ごし、心身共に、大きく、逞しく成長しました。遡りますと、皆さんは、令和3年4月入学し、直後に新入生ホームルーム合宿を予定しておりました。ところが、新型コロナウイルスによる「緊急事態宣言」の発出を受け、取りやめとなりました。また、楽しみにしていた文化祭も中止になるなど、まずは我慢を強いられるスタートとなってしまいました。

学校ではマスクをつけ、昼食時も会話を控える、新しい生活様式への順応が求められました。部活動の大会等が制限されることもありました。しかし、そのような中でも、辛抱強く何事にも全力で取り組んでくれました。

そうして、昨年5月、コロナ禍は新たな段階に入り、次第に伸びやかな学校生活が戻ってきました。

その中で、体育祭や文化祭などの学校行事では、上級生らしく全力で取り組みながらも、後輩たちを楽しませようと笑顔で盛り上げ、また気配りを見せてくれました。また、部活動では、大会にコンクールに、コロナ禍の中でも積みあげてきた努力の成果をいかんなく発揮してくれました。

皆さんは、逆境の中で高校生活を送り、そしてそれを乗り越えた。かけがえのない仲間とともに。そのことは、これからの人生で必ず役に立ちます。私たちも、困難を乗り越えた世代として記憶し、前向きに進み続けたあの姿を忘れることはありません。

社会に目をやりますと、この3年間、世界的なスポーツ大会、東京と北京で行われた「オリンピック・パラリンピック」「サッカーワールドカップカタール大会」野球の「WBC」が開催され、日本人選手が大いに活躍しました。皆さんの記憶にも残っていることと思います。見る人に勇気を与えようと奮闘した日本代表選手と、よい学校生活を作ろうとした皆さんの健闘が重なって見え、我々が勇気をもらうことも多くありました。困難に立ち向かい成長した高校生活と、この3年間に総括したいと思います。

その皆さんは、今、大きな世界へと旅立っていこうとしています。私は、昨年4月に皆さんにこういうことを言いました。人生の目的とは何か。私は、この世のために、人々のために貢献することだと思う。だから、人の役に立っていると思ったとき人は喜びを感じ、自分を磨き高めていると思うとき、充実感を持つのだと思います。違う言葉で表現するならば、「社会貢献」と「自己実現」です。

先が見えにくい時代であるかも知れませんが、そういう志を持って努力していけば、これからも人として大きく成長していくことでしょう。成長すれば、皆さんの活躍する範囲が広がります。そして、人が皆さんを必要とするようになります。その中で皆さんは周りに何かを与え、また同時に人に囲まれ、幸せになっていくのです。だからこそ、これからも、志を持って、努力、実践し続けることが大切です。

皆さんには、是非そういう生き方をめざし、ぜひ、先ほども言いました、「社会貢献」と「自己実現」を果たして行って欲しいと願っています。

さて、保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。高校卒業は、子育ての卒業ともいわれます。幼少期の、目が離せなかったあの頃から、手塩にかけて育ててこられ、ご覧の通り立派に成長されました。幾多のご苦勞、そして思い出があったことだろうと推察いたします。私どもも日々の成長を保護者の皆様と一緒に見守ってこられ幸せでした。本校職員一同、至らないところもあったかもしれませんが、心の限りに努めてまいりました。この間、本校の教育活動に理解を賜り、お寄せいただいたご厚情とご支援に対しまして、職員を代表し、心から御礼申し上げます。

また、ご多忙中にも関わりませず、PTA会長様、同窓会長様をはじめ、多くのご来賓の方々にご臨席を賜りました。衷心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

最後に、皆さんに一つの言葉を贈ります。  
明治から昭和を生きた歌人の与謝野晶子さんの言葉です。

「若さ」の前に不可能もなければ、陰影もない。それは一切を突破する力であり、一切を明るくする太陽である。

若さには、あらゆる可能性がある、どのような存在にでもなりうるという意味です。皆さんは若い。努力次第でどのような道でも開ける。その一人一人が選んだ道がこの社会を作っていく。これから皆さんが作っていく社会は、この世に希望を与え、一切を明るくする、すなわち皆さんは、社会を照らしていく太陽です。そのために、卒業後の次のステージで、自分の進むべき方向性を見定め、邁進してってください。

さあ、いよいよ、皆さんの旅立ちのときです。  
この3年間過ごした学び舎から、広い世界を飛び回ることでできる立派な左右の翼、双翼を身にまとった皆さんは天高く未来へ羽ばたいていこうとしています。

皆さんの一人ひとりの未来が、素晴らしいものになることを心からお祈りし、式辞といたします。

令和6年3月1日  
尼崎市立尼崎双星高等学校長 長澤 広昭